

発行所

札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部同窓会
TEL&FAX (011) 706-5007
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp
http://hokudai-med-dousou.com

編集人 田中 伸哉
発行人 浅香 正博

北大医学部同窓会新聞



「北大病院から眺む」

ながい あずさ
長井 梓(89期)

CONTENTS

- (1) 副会長再任のご挨拶... 佐久間 一郎
副会長就任のご挨拶... 久住 一郎
(2) 令和2年4月 1年次入学者名簿
令和2年4月 2年次進級者名簿
令和2年4月 2年次学士編入学者名簿
教授就任のご挨拶... 伊藤 陽一
算数で伝える新型コロナウイルス対策「算数コロナ」... 樋田 泰浩
(3) 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)ワクチンの開発... 長谷川秀樹
(4) 新世紀の医学に向けて(40)
No More Corona プロジェクトのスタンス... 朝倉 利見
(5) 医学部医学科公認サークル紹介シリーズ第4回
IFMSA北大... 石丸 大翔
北大医学部ソフトテニス部... 平川 萌
同窓会新聞縮刷版IIが刊行されました
フラテ107号発行のお知らせ
(6) 北海道大学医学部創立100周年記念事業募金へのご協力をお願い
(7) 北海道大学医学部 フラテ祭2020開催中止のお知らせ
(8) 北海道大学医学部創立100周年記念オリジナルグッズ
(9) 告知板
事務局からお知らせ
新刊書紹介
(10) 令和2年度 同窓会員名簿記載事項確認のお願い
過年度分未納会費が2年を超える会費未納者と会員名簿の発送について
北海道医学会からお知らせ
百年記念館の利用について
同窓会費の納入は口座振替で
同窓会費納入のお願い
ご逝去者 一面の写真説明
編集後記

副会長再任のご挨拶



さくま いちろう
佐久間 一郎(55期)

この度、浅香正博会長のご推挙をいただき、学外よりの副会長として再任を仰せつかりました。昨年百周年を機に医学部百年記念会館が建立・開設されたものの、COVID-19流行が医学界に激震を与えているこの時期に、北大医学部同窓会の副会長の大役を再度お受けすることとなり、大変身の引き締まる思いです。

私が医学部に在籍中に、浅香会長が委員長となり「北海道大学病院研修医制度」が策定され、私は副委員長として研修医募集を担当させていただきました。ところが同制度開始以降、北大医学部卒業生の在籍先が不明となる場合が多くなり、同窓会名簿にも空欄の多い期が増え、同窓会費収入も減少致しました。しかし6年前に浅香正博先生の御英断により、医学部入学時から医学部同窓会に入会するように規約が改正され、若い会員が増え、本会の活性化が得られたと共に、同窓会費収入も安定してきております。

令和2年度から、初期研修医の2年目後半に「臨床外来実習」が開始されます。それまでに、処方箋を発行することとなる研修医は、「ベンゾジアゼピン系薬剤の2種類以上処方」に際する処方箋料の減額を回避するため、日本医師会生涯教育講座の「不眠」もしくは「不安」を2

単位以上取得しておくことが求められます。初期研修医は郡市医師会(または医育機関医師会)、都道府県医師会および日本医師会の入会費が無料ですので、日本医師会会員になればeラーニングで2単位を取得できます。もしくは、医師会や内科医会等が企画した研修会で2単位が取得可能です。私は札幌市・北海道内科医会の会長・副会長を拝命しており、昨年度は何度かその目的の研修会を企画・開催致しました。この半年はCOVID-19の流行により、研修会が開催できない状況でしたが、間もなく解禁・再開されますので、同様な研修会を再度企画・開催したいと存じます。

今年の冬は臨床医にとって、インフルエンザ、COVID-19および通常の感冒の患者をどのように鑑別診断・治療するかが課題となっております。北大医学部と北海道医師会・札幌市医師会が協力して認可・一般化される「唾液を用いたCOVID-19のPCR」が利用されることと存じます。

最後に、私は浅香会長をお支えし、微力ながら主に実地臨床から、本会の発展に尽力することをお誓い申し上げます。最後に、私は浅香会長をお支えし、微力ながら主に実地臨床から、本会の発展に尽力することをお誓い申し上げます。

副会長就任のご挨拶



くすみ いちろう
久住 一郎(60期)

本年度の役員改選で吉岡研究院長が業務多忙のため北大医学部同窓会副会長の再任を辞退されたことから、その後任として副会長のご指名をいただきました。私は、浅香同窓会会長が同職に就任された、同じ平成24年から、医学部で精神医学教室を担当しております。60期評議員を4年間務めた以外、これまで同窓会に対してほとんど貢献らしい貢献ができておりませんでしたので、今回の指名は青天の霹靂ではありますが、同窓会と医学部の連携をこれまで以上に強固なものにして、同窓会のさらなる発展に寄与できるように、その重責を果たしていきたいと考えております。

北大医学部は、昨年、創立100周年を迎え、記念事業としての記念式典や百年記念館落成を無事終えて、次の100年に向かって新たな歩みを始めたところでもあります。しかしながら、本年に入ってからCOVID-19感染拡大に伴い、生活様式の変化や経済的影響とともに、大学の教育や研究にも甚大な影響が及びました。学生が医学部や病院に立ち入ることができない時期に、いかに講義や実習における教育レベルを維持するかという、大きなパラダイムシフトを突きつけられています。感染が短期間では終息する見込みのない状況で、これを機会に新たな教育システムの創出が求められており、今

こそ叡智の結集が必要な時でもあります。北大医学部が近く受審予定である国際認証においても、新たな課題としてこのような対応力が求められてくるのではないのでしょうか。

最近、北大医学部同窓会新聞の縮刷版IIが発刊されたのを機に、創刊号から150号までの内容を改めて読み返してみました。同窓会費の納入率や記念事業の寄附率のことがしばしば話題になり、学生や同窓生の「母校愛」のこともよく論じられてきました。北大医学部同窓会では、総会・新入会員歓迎会、フラテ祭や学友会の助成、研究助成や学生表彰など、入学時から同窓会員になった学生を目に見える形でサポートするシステムが少しずつ整えられてきています。全国の医学部学生の7%がCOVID-19感染拡大に伴う経済的困窮から退学を考慮せざるを得ない状況にあるとの報道がなされる中、北大医学部でも生活に困窮する学生のための緊急支援についてのご支援を同窓会会員の皆様をお願いしており、このような取り組み一つ一つが「母校愛」を着実に醸成していくものと信じております。創立100周年記念事業と併せて、同窓会の皆様のさらなるご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

令和2年4月 1年次入学者名簿(102名)

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
白土 涼乙		石山 飛鳥	湘南高校	大島 慧士	大阪教育大附属天王寺校舎	畑中 宏太	東海高校	中島明日音	鷗友学園女子高校	小竹 皓貴	小樽潮陵
山崎 貴央	札幌北	滝沢麟太郎	聖光学院	大西志の歩	釧路湖陵	門田 幹生	六甲学院高校	藤由 薫慈	新潟高校	樋口 桃子	札幌北
申 智樹		伊勢 英将	札幌南	中野 開智	札幌南	國分 瑞貴	都立小石川中等教育学校	木村 竜大	札幌北	村上 昌	大阪星光学院高校
山下 倫暉	立命館慶祥高校	田口 周		大田 明知	北嶺高校	早矢仕智之		永谷紗都子	清風南海高校	小西 響稀	札幌南
杉尾 凌虎	苫小牧東	稲垣大志郎	大阪府立茨木高校	奥田 琴香	滝高校	上村 広大	海城高校	細野 航	東海高校	飛弾 栗里	札幌南
吉川 竜平	釧路湖陵	玉木 柊多	札幌南	中村 伊吹	札幌北	合六 真由	立命館慶祥高校	日下 拓也	北嶺高校	村田 翔	
阿部 泰樹	攻玉社高校	井口 和彦	久留米大学附属高校	大槻 武史		人見 航平	帯広柏葉高校	西岡沙耶香	愛光高校	斉藤 立真	海城高校
鈴木 雄星	群馬県立太田高校	丹野 日生	茨城高校	小田島史徳	群馬県立中央中等教育学校	川嶋 拓海	立命館慶祥高校	牧野 照正	札幌南	福嶋 奈桜	札幌南
吉村 椋人		新井美也子	三重県立津高校	西村 峻	札幌南	島田 琉海	渋谷教育学園渋谷高校	國澤 綾恭	旭川東	山内 大翔	
池澤 駿		猪口 裕太		小野澤杏輔	攻玉社高校	福富 太知	駒場東邦中学・高等学校	根上 真菜	豊島岡女子学園高校	坂倉 星哉	北嶺高校
関 稜吾	札幌南	津山 昂来	札幌南	完山百合乃	四天王寺高校	菊池 駿利	浜松日体高等学校	増永 直人	大阪星光学院	山内 智仁	愛光高校
渡邊 蒼也	北見北斗	井澤 莉子	札幌北	西本 怜央	兵庫県立神戸高校	塚本 美羽	札幌東	熊谷 達也		山本 若葉	東洋英和女学院高等部
石谷光太郎	北嶺高校	伊林 潤	帯広柏葉高校	片平 天晴	茨城県立竹園高校	藤井 甚平	寿都高校	早川可奈子	立命館慶祥高校	坂倉 遼亮	
高木 翔成	久留米大学附属高校	富樫 陸	北嶺高校	岸本 佳子	仙台二華高校	菊地 涼介	札幌北	松永 和真	浦和高校	山口竜之介	大阪教育大附属天王寺校舎
渡部 佑麻		上田 愛	旭川東	畑 航明	札幌南	中川しきぶ	帯広柏葉高校	光島悠太郎	札幌南	渡邊 怜亜	立命館慶祥高校
石塚 有貴	六甲学院高等学校	大久保穂紀	札幌南	加地 薫	渋谷教育学園渋谷高校	藤枝 岳矢	名古屋高校	樋口 真生	高卒認定	嶋本 誠児	日比谷高校
高橋 慶匠	旭川東	戸田壮太郎	茨城県立土浦第一高校	木村 実希	松本深志高校	吉川 侃	西大和学園高校	三浦健太郎	早稲田高等学校	山崎 慎司	札幌北

令和2年4月 2年次進級者名簿(5名) ※総合教育部から移行

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
岡本 大樹		石田 舜也	千葉県立千葉高校	鉢呂 広介		山谷 昂大	函館ラサール	林 竜也	

令和2年4月 2年次学士編入学者名簿(5名)

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
米谷 奈実		柴田 幸資	明治薬科大学	今田雄太郎	東京大学	中村 彰吾	大阪大学	金子 雄司	

教授就任のご挨拶



令和2年4月1日付で北海道大学病院臨床研究開発センター生物統計部門教授を拝命いたしました。ここに謹んで新任のご挨拶を申し上げます。臨床研究開発センターは、北海道大学病院における新規医療技術の開発推進を目的として、医師をはじめとした研究者による開発研究、臨床研究、治験の実施などを一貫して支援しています。生物統計部門は、臨床研究のデザインや解析

方法に関する統計相談、臨床試験実施計画書及び統計解析計画書の作成、統計解析の実施、解析報告書の作成、総括報告書の統計学的項目の検討といった開発研究における統計学的側面の支援を行う部門です。

私は、日本で初めて生物統計学教室を作られた大橋靖雄教授の下で平成12年に東京大学大学院医学系研究科修士課程を修了し、平成13年に同大学院博士後期課程を退学して、大橋研の助手となりました。助手および助教として、学部・大学院生の教育に従事した後、平成20年に北海道臨床開発機構の生物統計担当となるべく北海道大学大学院医学研究科特任講師に着任しました。

北海道臨床開発機構は「文部科学省橋渡し研究支援推進プログラム」によって設立された開発研究支援組織であり、医師主導治験を実施するためのインフラ整備を目的としていました。私は医師主導治験の研究計画書やデータセンターの立ち上げに携わり、人工手関節などいくつかのシーズの薬事承認に関与しました。平成30年より統計数理研究所医療健康データ科学研究センター長として、全国の大学・研究所等で臨床研究を支援する生物統計家をネットワークする事業に参画し、教育コースや公開講座の実施、eLearningサイトの構築を通して、高度化する生物統計学の教育を実施しました。

私が専門とする生物統計学は、昨今注目を集めているビックデータ解析やAIといった研究分野とも密接に関連しており、データに基づいた科学的なエビデンスを構築する方法論を提供しています。著名な統計家George E. P. Boxは“All models are wrong; but some are useful” (全てのモデルは間違っている、だが中には役立つものもある) と言っています。我々生物統計家の役割は、役に立つモデルを見極め、科学的エビデンスの構築に貢献し、世の中を良くしていくことだと思っています。同窓会の皆様のご支援、ご鞭撻を賜われましたら幸いです。何卒よろしく申し上げます。

算数で伝える新型コロナウイルス対策 「算数コロナ」

Youtubeで「算数コロナ」を検索していただくとHTB「イチオシ!!」の動画が出てきます。これは接触削減によって新規感染者数が減る様子を算数を使って体感することを意図して私が考案したコンテンツです。腫瘍病理学分野 田中伸哉教授のご推薦により北海道テレビで放映していただきました。

新型コロナウイルス感染者数が急増した2020年4月に衛生学教室教授西浦博先生が「接触8割削減」の重要性を訴えられていましたが、4月7日の緊急事態宣言発出の際には「7割から8割削減」にすり替わっていました。4月10日に行われたインタビュー記事の中で「科学的には推定している数字があるので、厚労省のクラスター班としてできな

ければ北大の西浦としてやらないといけない」と述べられていました。実際に後日、厚労省のバックボードのない別室で西浦先生が矢面に立って覚悟の単独会見を断行する姿を拝見し、自分の中に強く共鳴するものがありました。

西浦先生がTwitterで簡単な計算式を説明していました。さらに簡潔にすると実効再生産数Rt=基本再生産数R0×(1.0 - 接触削減率/100)となります。当時の知見を参考にして1人から10日目(現在の知見では5日目とするのが適切)に2.5人に二次感染すると想定してグラフを描いてみました。すると、5割削減では完全に「オーバーシュート」、6割で横ばい、7割だとゆっくり減少、8割だと1ヶ月程度で急速に収束に向かうこと

が大変良く実感できました。Facebookに投稿すると「初めて8割の意味が理解できた」といった反響をいただきました。これなら小学生でもわかると思います。算数問題「新型コロナウイルスにかかる人の数」を作成しました。下記が抜粋して編集したものです。

- 1) 計算を簡単にするために1人から10日目に2.5人にうつることにします。100人からスタートで10日後、20日後、30日後に何人にうつるか計算してみましょう。(250, 625, 1,562.5)
- 2) ウイルスは人と近づくことを減らすとうつるのを減らすことができます。6割減らすとどうなるか計算しましょう。6割減らした時に1人から10日目にうつる人数=2.5×(1.0-0.6) = (1)、

すると6割減らすとうつる人数は(ずっと変わらない)。

- 3) なにも気を付けなかった時 (0%減)、それぞれががんばって50%、60%、70%、80%減らした時に100人から10日目に何人うつるか計算しましょう。0%の時、100×2.5×(1.0-0)=(250)、50%の時、100×2.5×(1.0-0.5)=(125)、60%の時、100×2.5×(1.0-0.6)=(100)、70%の時、100×2.5×(1.0-0.7)=(75)、80%の時、100×2.5×(1.0-0.8)=(50)
- 4) 20日目、30日目、・・・を計算してグラフを描きましょう。

この「算数コロナ」は全国の小学3年生から中学、高校、大学の講義まで広く活用していただいています。写真はお母さんの手描きの問題に小学生の娘

循環器・呼吸器外科
樋田 泰浩(67期)



さんが回答してアマビエのイラストとメッセージを添えてTwitterに投稿してくれたものです。フィラデルフィア在住の友人と北海道大学病院国際医療部Shane先生によって英語版が、李建銓先生によって中国語版が海外に向けて発信されました。またウェブサイト「山中伸弥による新型コロナウイルス情報発信」の「動画で学ぶ」コーナーで、「算数でわかる外出自粛の効果」としてご紹介いただき、4万回以上再生していただいております。西浦先生、医学部学生の「ノーモアコロナ」にもツイートしてもらいました。

一旦収束した後の「接触削減60%相当」の生活の重要性を説明するために、無対策時に一人からうつる人数、基本再生産数R0と対策した時に実際に一人からうつる人数、実効再生産数Rtの関係を説明する「レプリカコインモデル」(Reproduction CoIN model, $R_t = R_0 \times \text{接触率} \times \text{浸透率} \times \text{無免疫者率}$)を考案しました。「接触率」は外出や人との交流などです。最近では「人流」と呼ばれることがあります。2019年の人流を100%と想定します。「浸透率」は人と人が接触した時の感染しやすさです。無防備だと100%、接触者同士が完璧な防護服を

着ていれば0%のイメージです。「無免疫者率」は新型コロナウイルスに対する免疫が無い人の割合で流行前は100%です。 $R_t=1$ (つまり新規感染者数は横ばい)、 $R_0=2.5$ とすると、 $\text{接触率} \times \text{浸透率} \times \text{無免疫者率} = 0.4$ になります。これが「接触削減60%相当」です。6割以上が免疫を持てば $\text{接触率} \times \text{浸透率} = 1.0$ でも

新規感染者数は増えず、「集団免疫」が成立することが説明できます。接触削減率の代わりに接触率を用いることで引き算を混ぜる必要がなくなり、算数が苦手でも計算機で簡単に計算できるところがポイントです。他にもいくつかの続編をFacebookとTwitterに投稿しています。もしご興味を持っていた

だいた方は一度お目通しいただけると嬉しいです。

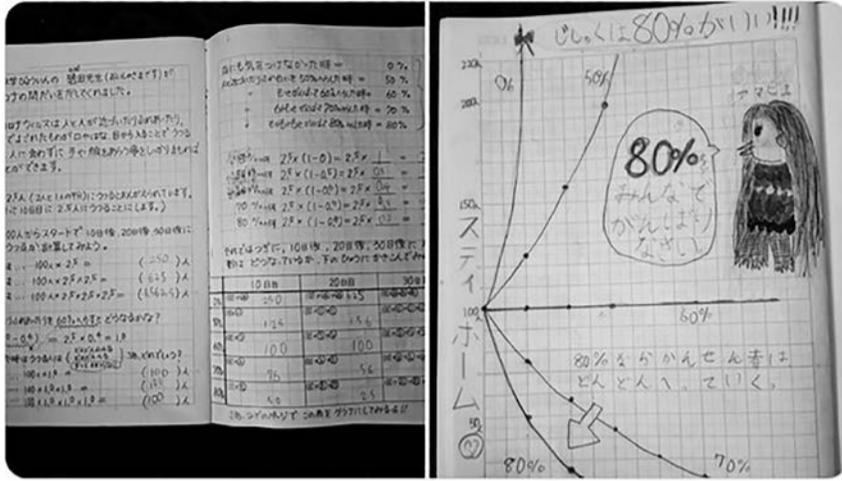
この寄稿文を京都大学に異動される西浦博先生に捧げます。日本のために益々のご活躍をお願い申し上げます。



Kamika @KamikaKanaK · 1h

Replying to @KamikaKanaK and @yasuhiro_hida

ゆうべ。子どもが寝てからー！娘のひとり勉強ノートに問題として書いてみたよ。私は思いっきり文系で数字アレルギーの食わず嫌い(?)でした。娘は小3ですがしっかり理解してくれました♡うちの頑固♫じいちゃん♫、孫の話だけはよく聞いてくれるので娘からいっそう啓蒙してもらおう!!



新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) ワクチンの開発

WHOインフルエンザ協力センター長
国立感染症研究所インフルエンザウイルス研究センター長
はせがわ ひでき
長谷川 秀樹(69期)



2020年は「中国武漢の海鮮市場でウイルス性肺炎の発生が見られる」というニュースと共に年が明けた。間もなく原因がSARSコロナウイルス類似の新型コロナウイルスによる事が明らかとなった。当初、ヒト-ヒト感染は限定的であるという報告であったが、武漢では患者が増え続け、医療崩壊が報道され、国内でも感染者が同定され始め、国立感染症研究所(以下「感染研」という)では武漢からのチャーター便帰国者、感染者が発生したクルーズ船の乗客乗員の検査支援が求められ、担当を超えて対応した。さらに、同時期の二月上旬、厚生労働省からの要請を受けワクチン開発を進める事になった。

新型コロナウイルスに対するワクチンを考える時いくつかの課題が持ち上がった。類似のコロナウイルスであるSARSやMERSには有効なワクチンが開発されていない事、後にSARS-CoV-2と命名された新型コロナウイルスの取り扱いがバイオセーフティーレベル3(BSL3)で有る事、ウイルスの増殖が良くない事等が挙げられたが、更に、SARSのワクチン研究の過程でワクチン接種による感染病態の増悪現象が懸念された。ワクチンは治療薬と異なり健康な人に用いるので、その安全面においては細心の注意が必要である。

SARS-CoV-2のパンデミックを受け、

さまざまなプラットフォームによるワクチン開発が世界中で開始された。従来の感染症ワクチンは病原体を弱毒化した生ワクチン、病原体を不活化した不活化ワクチン、病原体の成分を用いたサブユニットワクチンが主なものであった。しかしこれまで開始されたワクチン開発は従来の方法に加え、既存の承認されたワクチンとしては耳慣れないRNAワクチン、DNAワクチン、組換えベクターワクチンという新しい技術によるワクチンが羅列されている。世界各国が蔓延を続けるSARS-CoV-2に対し一刻も早く有効なワクチンが望まれている現れであり、ワクチンの技術革新のチャンスでもあると思われる。これらの中から新型コロナウイルス感染症を人類が克服するワクチンが数多くできる事が重要であり、世間で言われている開発競争と見做すべきではないと考えている。

本感染症に対して私が真先に考えたワクチンプラットフォームは、バキュロウイルス発現系を用いた組換えタンパクによるサブユニットワクチンであった。対象ウイルスの取り扱いバイオセーフティーレベルにとらわれる事なく、ワクチン抗原を短時間で大量に生産できるメリットがあると考えた。また、ヒトパピローウイルスワクチンや、米国での組換えインフルエンザ

HAワクチンとしてワクチン製造系としての実績がある。連日報道されたSARS-CoV-2の電子顕微鏡写真をご覧になった方は多いと思うが、その形態は特徴的であり、ウイルス表面に突出するスパイクが太陽のコロナのように見られる。その突起こそが受容体に結合するスパイク(S)タンパクである。Sタンパクは受容体結合部位を含むため、感染防御の為のワクチン抗原としては第一候補になる。Sタンパクは生体の受容体であるAngiotensin converting enzyme 2(ACE2)に結合し膜融合を起こし感染が成立する。その過程を阻止する為にSタンパクに結合しウイルス感染を阻害する抗体の誘導が期待できるワクチンが望まれる。

ワクチンの有効性、安全性の検証には動物モデルによる検証が不可欠である。まず、どのような動物が感染モデルとなるのか、早い時期からWHOでもワーキンググループが立ち上がり情報交換がなされた。感染研では感染病理部の鈴木忠樹部長(78期)と協力しSARSウイルスの研究で作製したACE2トランスジェニックマウス、カンクイザル、フェレット等の動物での感染病態を病理学的に解析し、ヒト剖検例と比較しワクチン評価に適切な動物モデルを検討している。特にワクチンによる病態増悪の有無の検討は動物モデル

での評価が重要である。SARSワクチンの研究からコロナウイルスワクチンではTh1/Th2バランスが病態増悪に関与している事が分かってきており、アジュバントによる免疫修飾が病態増悪回避の鍵となる可能性が示唆されている。アジュバントの検討においては北大名誉教授の瀬谷司先生(52期)にご協力いただいている。

私は、病理医として感染症のワクチンを検討する時、疾患の病態を理解して適切な防御法を考えるのが大切であると感じている。インフルエンザワクチンではワクチンを接種しても罹患する人が毎年沢山いる。流行も毎年ある。それは感染のターゲットである上気道の粘膜がワクチンによって血中に誘導される抗体によって防御できないからである。新型コロナウイルスにおいても感染のターゲットが上気道の上皮、及び肺胞上皮である。通常のアプローチでは重症化を予防する事ができても流行を抑えるのが難しいかもしれない。速攻性が求められているワクチンに対応しつつ、いままでのインフルエンザでの経験を活かし、最終的には感染を、さらには流行を抑えられる可能性の高い粘膜免疫を誘導するワクチンの開発を目指したい。

新世紀の医学に向けて (40)

北海道大学病院てんかんセンターのご紹介

てんかん発作に悩む患者さんの診断、治療を集学的に進めていく目的で、北海道大学病院てんかんセンターは、平成27年8月に設立されました。初代センター長に佐々木秀直先生（現神経内科名誉教授）が就任され、活動が開始されました。てんかんの診断治療の向上のため、関連する精神科神経科、神経内科、脳神経外科、小児科が連携講座として参画し、診療に当たっております。昨年より久住一郎先生（精神科神経科教授）がセンター長に就任され、活動を継続しています。

てんかんの有病率は高く、人口比1%程度とされており、日本国内に約120万人、北海道内に5万人以上、札幌市内に2万人の患者さんがいることとなります。大半の患者さんは薬物（抗てんかん薬）の内服により通常の生活を送っています。すなわち発作もなく通常の生活を送っておりますので、発作症状が人前で起こることは少なく、一般の方に気付かれることは多くありません。逆の見方をすれば、多くの患者さんはひっそりと病気であることを明かさずに生活しています。免許も取得し、結婚もし、お子さんを持って普通の一生を送られております。しかし、これは違った見方をすれば、てんかんに対する偏見が多く存在し、病名を公表することによる不利益が多いことが

ら、そうせざるを得ないとも言えます。10年間発作がない患者さんに対して、今後発作が生じないことの証明を求めてくる企業もあります。未だに存在する偏見の中に患者さんは生活されております。

最近では、てんかんを持つ方を「てんかん患者」と呼ばず「てんかんを持つ人：People with epilepsy (PWE)」と呼ぶことが欧米では一般的になってきています。てんかんを防ぐ薬は、近視患者の眼鏡に例えられ、いわゆる体質を矯正する一手段として捉えられ、この状況をクリアすれば運転を含めて一般の方々と変わらない権利が与えられるという考え方です。

てんかんセンターの設立目的は、適切な治療提供と、「てんかん」という疾患の市民啓発にあります。北大病院には、てんかん診断・治療における全ての機器が備えられております。長時間脳波記録を行なう設備を始め、複数の高磁場MRI、高精度の脳機能測定を可能とするPET、SPECT装置、また、てんかん原性焦点を特定する生体磁気測定装置（脳磁図）も1999年より設置され、国内トップクラスの解析患者数を誇っております。これらの知見は、北大病院のみならず、協力病院である中村記念病院、札幌医科大学へも提供されております。てんかん外科治療も継続的に

行なわれており、てんかん発作の制圧のために活動を行なっております。最近では、迷走神経刺激装置の埋込み手術が定期的に行なわれております。この装置は、左迷走神経に電極を巻き付け、持続的に電気刺激を行なう装置です。てんかんを起こす脳葉を切除する手術だけでなく、このような緩和的手術治療が多く開発されてきており、今後の進歩が期待されます。

また、てんかんの疾患啓発のために市民公開講座を毎年開催しており、毎回、100名を超える方々の参加をいただいております。公開講座では、医療関係者よりの情報提供だけでなく、いわゆるPWEからの講演をいただくこともあります。本年は、てんかんを克服したラグビートップリーガーの講演を予定しておりました。てんかん手術により発作の抑制が得られて、現在も第一線で活躍なさっております。このような方々の体験を生で拝聴できることは、てんかんに悩む患者さんに大きな励みになると確信しております。特に、病名を明かすことができず、静かに病気と闘っている方へのメッセージになると思っております。残念ながら、新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、今春に予定していた公開講座は現在延期の状態になっております。この感染症が終息した

暁には、皆様に元気を与えるご講演をいただけるものと期待しております。

北海道大学は日本のてんかん学が発祥した地でありますので、今後も、診療のみならず、質の高い研究成果を発信していきたいと考えております。そして、北海道のみならず、日本国内のてんかん医療の発展・向上のために努力していく所存です。

文責 白石秀明 (68期)



てんかん手術の一例。上段:左海馬萎縮像がMRIにて認められる。下段左:ブドウ糖代謝を表す18F-FDG PETにて、左海馬の低代謝が認められる。下段中:脳磁図では左海馬周辺からの電流が認められる。下段右:術後MRI。選択的左海馬切除術が施行された。背景は、北大病院地階に設置されている生体磁気計測装置(脳磁図)。

No More Corona プロジェクトのスタンス

医学科5年

あさくら としあき
朝倉 利晃(98期)



私は医学部の知人に声を掛けて3月1日に「No More Corona プロジェクト」(以下、NMC)を立ち上げ、5月31日まで活動しました。このプロジェクトは、新型コロナウイルスによる全世代の重症者数・死亡者数の減少を目指し、同世代をターゲットとした情報発信を行いました。例えば、LINEを用いて北大生のネットワークを形成し、そこに感染症対策についてinfographicsを意識した画像を配信したり、HPやTwitterで大学生世代の人に関わりのある情報を発信したりしました。NMCの活動の詳細については、HP(<https://no-more-corona.com/>)に活動報告書を掲載していますので、そちらをご覧ください。

ここでは、3月1日にNMCが発足してから、NMCのスタンスが確立するまでを振り返りたいと思います。というのも、その時期が一番、NMCが集中して活動し、多くの人と様々な意見を交わしあったからです。

NMCが発足した頃は丁度、2月28日に鈴木道知事が独自の緊急事態宣言を発令し、3月2日には、北海道大学から全国に先駆けて学生に向けて強い自粛要請が記された通知が出されました。今、この記事を書いている6月の時点では、感染症対策を意識することが当たり前

という風潮になっていますが、活動を始めた3月上旬の時点では、感染させるリスクを理由に飲み会を断るといった行動は意識が高い人だと見られがちでした。

NMCが出来た当初は、何らかの呼び掛けを早く行わなければいけないと焦っていました。そのため、専門家会議や大学の通知に書かれている感染リスクの高い行動や自粛をするべきだという旨が全面に出た内容を発信していました。しかしながら、そのような形で呼び掛けを行っていると、何だか情報を伝えるのが嫌になってきました。というのも、発信している情報が、自粛すべきことばかり並べたものとなってしまい、自分たちでさえ気が滅入る内容だったからです。正直な話を申し上げますと、3月中旬くらいになって海外で感染が爆発的に増えている状態になっても、感染症対策の重要性は承知してはいたのですが、日常生活を送る上で自分が感染を広げるかもしれない、他人を傷つけるかもしれないという実感はありませんでした。日本で他人の行動を制限するような呼びかけは本当に良いことなのだろうか、という疑問はずっとありました。

今でも印象に残っているのですが、

その疑問が強くなり、活動自体に自信が持てなくなったため、3月12、13日には、高校時代の知人十数人にいきなり電話を掛けて、NMCが行なっている感染症対策の発信内容の印象や、一人一人の現在の生活の状況などを聞きました。(私は東京の高校を出ているので、全員道外の人たちでした。)電話した結果、ほぼ全員から、NMCが何をしたいのか分からないという言葉をいただきました。感染症対策の呼びかけをして社会をどうしたいのか、という部分がはっきりしていなかったんですね。

それを受け、メンバーと改めてNMCでは何を大切に、何が出来るか、そしてどのような社会を目指すべきか議論をしました。その結果、感染症対策を出来るだけポジティブに捉えるようにし、身近で生活に役立つ情報を発信することとしました。そうすることで、新型コロナウイルスの感染制御をしつつも、楽しく生活を送れるような社会を目指したかったのです。結果的にNMCは、この時形成されたスタンスを途中で変えることなく活動することが出来ました。この活動を通して、微力ですが日本の感染制御に貢献出来たのではないかと考えています。

最後に、本プロジェクトに関わって

くださった多くの方々に感謝申し上げます。情報発信に協力してくださった学生の皆様、お世話になりました医学部教務の皆様、3月の早い段階で本プロジェクトを取り上げてくださった北大CoSTEP様、留学生への情報発信に意欲的に協力してくださった学生支援課の皆様、ELMSの情報発信に許可をくださった吉岡医学研究院長、私たちが作成した画像を掲示していただいている北図書館の職員様、細かい感染症の知識に関してご指摘いただいた岸田直樹先生、本当にありがとうございました。また、最初にNMCが活動を始めるきっかけをくださり、最後まで見守ってくださった玉腰暁子教授、突然の声掛けにも関わらず、3ヶ月もの間プロジェクトと一緒にやってくれたメンバーには特別の感謝を申し上げます。

プロジェクトのメンバー

- 医学科5年 98期
朝倉 利晃(NMC代表)、田浦 拓弥(NMC副代表)、山口 翔(北大CNCリーダー)、久世 瑞穂(画像作成リーダー)、山崎 清裕(HP運用リーダー)、武石 侑杜
- 文学部4年
比嘉 ある(プロジェクトマネージャー)
- 医学科4年99期
依田 恵(北大CNCサブリーダー)
- 医学科2年101期
黒田 花音

医学部医学科公認サークル紹介シリーズ 第4回

IFMSA北大

(International Federation of Medical Student's Associations;国際医学生連盟)

代表 医学部保健学科3年(15期)
いしまる やまと
石丸 大翔

「医学部コミュニティを作ろう！」
今年度はこちらをスローガンとし、医療系の学生を中心に学生同士が気兼ねなく仲良くなれるようなコミュニケーションをとりながら、それぞれの学生が自身の「やりたい」を見つけ、それを実現できる団体にしたいと考えております。

当団体の活動に参加できるのは、北海道大学の医学部の学生だけではなく、全12学部が同じキャンパスにあること、そして札幌市という多くの大学が集まる恵まれた環境を活かし、北大を中心

とし医学などに興味がある「すべての」学生が対象となります。

例年の主な活動内容は母団体であるIFMSA-Japan(以下I-J)の活動を元に、多方面からの医療に関する授業では学べないような深い知識を学ぶことができる講演会や学生同士のプレゼンの開催。地域貢献のために、主に小中高生への正しい医療関連知識や健康についての教育。世界を視野に、交換留学生の受け入れや留学支援(医学科のみ)。北海道や札幌という地域についての知識を深めるための勉強会の開催。などとなっ

ておりました。

しかしながら、今年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、当面の間は対面での活動が厳しくなっている現状を踏まえ、例年やってきたことを柔軟に「オンライン」に切り替えつつ、新しく「今だからこそできる」ことも多数実施しております。例えば、オンラインで学生同士の新しいコミュニティを作ること。家での楽しく・有益な時間となるイベントの企画・運営、そして参加。地域貢献のための「オンライン」ボランティア。など、それぞれの学生が地域や同じく学生のニーズを知り、自身で「やりたい」と考えた様々な活動を行っています。5月にはNo More Corona プロジェクトと共催での、「コロナについて

知り、コロナと共に生きる」というようなイベントを開催いたしました。また、もともとオンラインでの活動が盛んであったI-Jの活動にも積極的に参加している部員も数多くいます。これからも持続的で有益な団体が在るために、部員一同精進してまいりますのでよろしくお願いたします。



北大医学部ソフトテニス部

医学科4年(99期)
ひらかわ もえ
平川 萌

医学部ソフトテニス部には、保健学科と医学科の部員合わせて48名が在籍しています。部員の仲も良く、楽しく部活に励んでおります。(今年はなかなか活動できていませんが…)

私たちは、東医体をはじめとする医学系の大会での優勝や、北海道学生ソフトテニス大会での団体戦一部昇格、個人戦でのインカレ出場などを目標に練習しております。週に4回の練習は医学部部活の中では少し多いのですが、勉強と部活をうまく両立させながら練

習に励んでいます。校内のテニスコートで早朝から自主練をし、放課後も球が見えなくなるまで練習する部員もいますし、メリハリをつけて、バイトをしながら趣味と部活を両立させている部員もいて、様々な形で熱心に部活動に取り組んでおります。

私たちの部活の素敵なところは、部員同士の仲が良く、縦横のつながりが強いところです。先輩方がとても面倒見がよく、丁寧に指導して下さるので、初心者でも大会で活躍する程上達

することができています。プライベートでも部員同士で過ごすことが多く、学年を超えて仲が良いです。また、OB・OGの先輩方とのつながりも大切にしており、OB・OGの先輩方にはいつも大変お世話になっております。部活動

を通して大学生生活においても、卒業後においても、かけがえのない仲間を得ることができる部活だと思います。

医学部ソフトテニス部一同、今後も目標達成のために精進していきたく思います。



同窓会新聞縮刷版Ⅱが刊行されました

同窓会新聞の縮刷版Ⅱ(101-150号)の作成に際し、会員の皆様方の御協力をいただきまして4月下旬に刊行いたしました。

本縮刷版Ⅱは1998年～2015年までの北大医学部・同窓会の動きが記録されており、また、特集として医学部100周年記念事業関連、医学部戦没同窓生追悼式関連記事を掲載しております。

購入を希望される方につきましては、同窓会事務局へご連絡くださいますようお願いいたします。

平成12年に刊行いたしました「同窓会新聞縮刷版Ⅰ」につきましても、多少在庫がありますので、希望される方はご連絡ください。



フラテ107号発行のお知らせ

医学部フラテ編集部

同窓会新聞をご覧の皆様、いつも学友会誌フラテをご購読いただき、誠にありがとうございます。皆様の温かいご支援を賜り、今春に「フラテ106号」を無事発刊することができました。

さて、我々フラテ編集部では、来年3月発行予定の「フラテ107号」の発行準備を進めております。COVID-19感染拡大に伴い、すべての人の生活様式が大きく変容しました。我々は、この変化を記録する使命があると考え、学生がどのような生活を送ったかを記事にしております。

我々フラテ編集部は、「北大同窓生の茶の間」であるべく、本号もほっと一息ついて頂ける温かい記事を多数ご用意しております。近年は比較的若い先生方からのご購読が減少傾

向にあります。もし、この文章で少しでも興味を持って頂いた先生がいらっしやいましたら、是非ご購入下されば幸いです。

ご購入をご希望の方は、同封の払込用紙またはQRコードからお支払いをお願い致します。バックナンバーもご用意しております。すでに106号巻末の用紙で申し込まれた方は今回申し込む必要はございません。



107号の主な内容(予定)

- ・COVID-19感染拡大、学生はどう過ごしたか
- ・教室だより、各教室の勉強会、

説明会一覧

- ・新任教授インタビュー
- ・みどりのベンチ(医療界で活躍する女性へのインタビュー)
- ・茶苑
- ・学生の広場

バックナンバーのご案内

バックナンバー(過去号)のご用意もご用意しております。数に限りがございます。在庫切れの場合はご容赦ください。

- ・106号 北大医学部100周年特集記事
- ・103号 感染対策でご活躍、西浦博先生 新任教授インタビュー
- ・100号 唾液PCRで話題、豊嶋崇徳先生 新任教授インタビュー

フラテ茶苑 寄稿者募集

フラテ茶苑では、卒業後の先生方からのご寄稿文を掲載しております。期

を問わず、ご自身の専門分野、趣味等をご投稿頂けます。多くの学生が読んでおり、北大出身の先生方の多彩な分野での活躍は学生にとって視野を広げる格好の機会となっております。

様々なバックグラウンドを持つ先生方がフラテ茶苑を通して交流できる、そんなコーナーにしていけたらと思います。今年度も沢山のご寄稿をお待ちしております。

○内容・形式・字数：自由(専門分野のお話、趣味のお話、最近取り組んでいる事など)

○〆切：2020年11月30日

フラテ編集部

E-mail: frate.med@gmail.com
〒060-8638
札幌市北区北15条西7丁目
北海道大学医学部内

北海道大学医学部創立100周年記念事業募金へのご協力をお願い

同窓生の皆さまのお力添えにより、昨年は創立100周年記念事業として医学部百年記念館の落成式及び記念式典を無事に執り行うことができ、本事業は一区切りを迎えましたが、事業の募金期間は2021（令和3）年3月まで続きます。

記念事業のもう一つの柱である「北海道大学医学部教育研究基金」の創設のため、より一層のご支援を賜りますよう、記念事業実行委員会一同、重ねてお願い申し上げます。

「北海道大学医学部教育研究基金」の創設

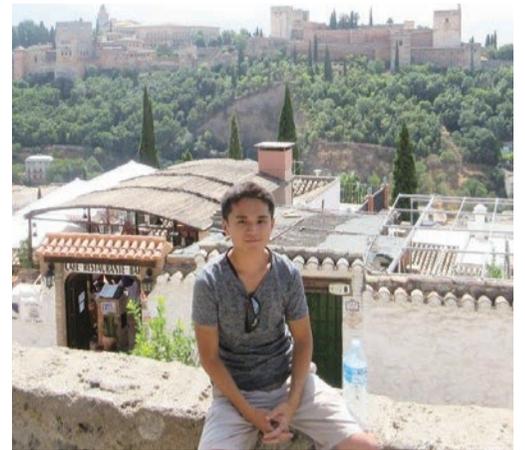
- ◆医学部医学科学生・大学院生に対する奨学支援
- ◆留学生に対する奨学支援
- ◆教職員の教育・研究活動支援
- ◆教育研究環境の整備

自分自身を見つける場所 私にとっての「北大医学部」

宮岡 慎一(96期)

私にとって、北大医学部は「自分は一体何者なのか」に気づかせてくれたかけがえのない場所です。米国での約1年間の留学を経験し、世界約40の国々を様々な形で訪れ、北大医学部の持つプログラムで中東・ヨーロッパ・東南アジア・アフリカでそれぞれ実習を行うことができるのも、こういった活動を積極的に支援してくれる北大医学部やOB・OGの皆様があつてのことと強く感じます。「将来は感染症や公衆衛生などの分野で日本・海外を問わず世界の人々の健康を守るような仕事をしたい。」英語が最も苦手な海外経験は一切ない私に、入学した頃からは思いもなかった、そんな将来の方向性を与えてくれたのは、この北大医学部でした。一人ひとりが本当の自分に出会うことができる、北大医学部がそんなかけがえのない場であり続けるためにも、皆様のご支援をどうぞよろしくお願い致します。

(※北海道大学医学部創立100周年記念事業基金募金趣意書より)

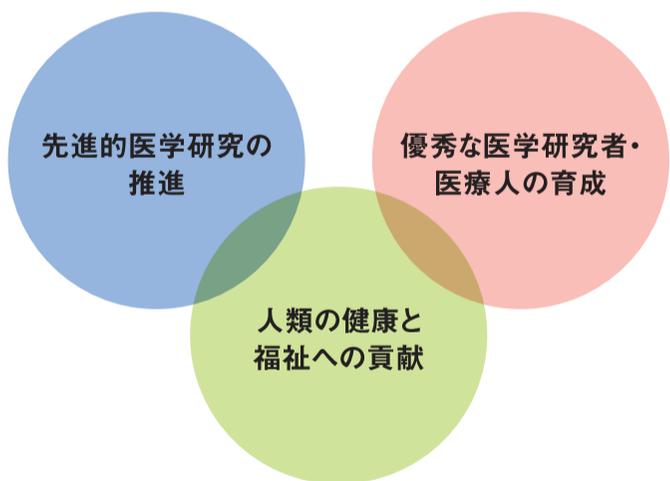


自己資金の充実が教育・研究活動の質を高め、医学部の持続的な発展を可能にします

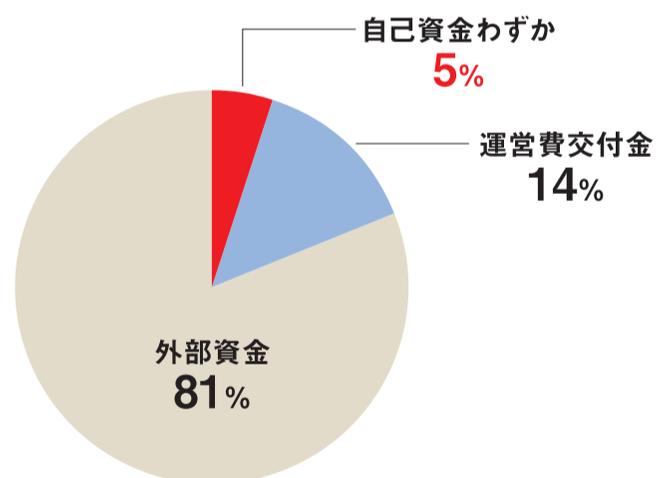
年々削減されている政府からの運営費交付金に頼ってはいけません。現在は、各教員の自助努力による競争的外部資金獲得が必須となっています。しかし、外部資金は年度により変動し、用途や期限が限られています。そのため、自己資金となる「北海道大学医学部創立100周年記念事業基金」は医学部発展の土台を強固なものにしてくれます。

（世界をリードする先進的医学研究を推進し、高い倫理観と豊かな人間性を有する
医学研究者・医療人を育てるためには、自己資金比率を高めていく必要があります。）

■「北海道大学医学部創立100周年記念事業基金」による社会貢献



■医学部の研究・教育における自己資金率



募金趣意書につきましては、以下の方法で取得いただけます。

- ①ウェブサイトからのダウンロード
北海道大学医学部創立100周年記念事業ウェブサイトからダウンロードいただけます
- ②メールまたはお電話によるご請求
医学系事務部総務課庶務担当
(E-mail : shomu@med.hokudai.ac.jp
電話 : 011-706-5085)

までご連絡ください。趣意書を郵送にてお送りいたします。

郵便振替・銀行振り込みによるご寄附のお申込みの場合は、同封の医学部創立100周年記念事業基金専用「払込取扱票(振込通知書)」をご利用の上、郵便振替または銀行によりお振り込みください。

また、クレジットカード決済によるご寄附のお申し込みについては、北大フロンティア基金ホームページ「寄附申し込みフォーム」からお手続きいただけます。

北海道大学医学部創立100周年記念事業実行委員会
募金活動小委員会委員長 吉岡 充弘

(問い合わせ先)
北海道大学医学系事務部総務課庶務担当
TEL/FAX : 011-706-5085/011-717-5286
E-mail : shomu@med.hokudai.ac.jp

スマートフォンからの申込みも可能です。QRコードもご利用いただけます。



同窓会卒業期別寄附状況

2020年6月30日現在

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
18期	1	0	0%	0	0
19期	1	1	100%	0	100,000
20期	2	0	0%	0	0
21期	2	0	0%	0	0
22期	4	0	0%	0	0
23期	7	1	14%	0	200,000
24期	5	1	20%	0	1,000,000
25期	15	2	13%	1	658,430
26期	6	0	0%	0	0
27期	10	3	30%	0	620,000
28期	19	9	47%	0	2,950,000
29期	21	6	29%	0	1,510,000
30期	36	10	28%	0	2,450,000
31期	21	3	14%	1	945,029
32期	27	5	19%	0	325,000
33期	35	7	20%	0	3,500,000
34期	45	7	16%	0	2,150,000
35期	50	26	52%	0	18,700,000
36期	48	8	17%	0	2,750,000
37期	56	31	55%	0	6,910,000
38期	54	10	19%	0	2,120,000
39期	54	18	33%	0	7,000,000
40期	53	18	34%	0	6,252,000
41期	65	25	38%	1	17,450,000
42期	65	48	74%	1	5,365,000
43期	53	18	34%	0	9,439,583
44期	79	74	94%	1	12,850,000
45期	62	14	23%	0	3,780,000
46期	79	53	67%	22	14,860,000
47期	78	11	14%	0	7,700,000
48期	73	16	22%	0	19,213,636
49期	92	9	10%	0	21,070,000

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
50期	89	13	15%	0	6,270,000
51期	101	11	11%	0	4,100,000
52期	86	8	9%	0	4,300,000
53期	80	9	11%	0	1,950,000
54期	102	11	11%	0	7,710,000
55期	108	24	22%	0	11,170,000
56期	104	16	15%	0	3,860,000
57期	124	26	21%	0	6,700,000
58期	96	14	15%	0	3,900,000
59期	122	11	9%	0	2,470,000
60期	116	32	28%	0	9,480,000
61期	100	16	16%	0	3,402,000
62期	115	8	7%	0	970,000
63期	102	10	10%	0	2,520,000
64期	114	35	31%	0	4,739,352
65期	115	13	11%	0	3,920,000
66期	114	18	16%	0	3,650,000
67期	106	28	26%	0	3,520,000
68期	101	9	9%	0	20,840,000
69期	107	10	9%	0	1,940,000
70期	94	9	10%	0	1,360,000
71期	89	7	8%	0	2,110,000
72期	80	11	14%	0	1,242,000
73期	82	12	15%	0	1,355,000
74期	82	12	15%	0	1,260,000
75期	81	10	12%	0	1,370,000
76期	74	8	11%	0	770,000
77期	67	2	3%	0	250,000
78期	74	13	18%	0	1,650,000
79期	83	8	10%	0	760,000
80期	85	5	6%	0	750,000
81期	63	7	11%	0	1,100,000

卒業期	全体数	個人		同期会 件数	寄附金額 (単位:円)
		寄附者数	寄附率		
82期	64	3	5%	0	500,000
83期	67	7	10%	0	534,000
84期	67	8	12%	0	560,000
85期	65	1	2%	0	50,000
86期	64	1	2%	0	20,000
87期	58	0	0%	0	0
88期	58	1	2%	0	50,000
89期	78	2	3%	0	250,000
90期	66	1	2%	0	20,000
91期	94	0	0%	0	0
92期	82	2	2%	0	110,000
93期	79	1	1%	0	20,000
94期	86	1	1%	0	10,000
会員(2)	168	31	18%	0	13,040,000
専1	0	0	0%	0	0
専2	2	0	0%	0	0
専3	3	0	0%	0	0
専4	1	1	100%	0	120,000
専5	12	3	25%	0	1,120,000
専6日	21	2	10%	0	300,000
専6新	4	0	0%	0	0
専7日	25	1	4%	0	100,000
専7新	15	1	7%	0	1,000,000
樺太	1	0	0%	0	0
計	5,454	927	17.0%	27	311,061,030

〔参考〕
医学部創立90周年における同窓会からの寄附状況(2010年3月末)

全体数	寄附者数	寄附率
6,272	1,656	26.4%

※2020年6月30日現在まとめ ※全体数(住所判明者): 故人は除く/海外在住者除く(平成30年度同窓会データより) ※法人(代表者が同窓生)は除く

寄附金納入状況

2020年6月30日現在

北海道大学医学部百年記念館に掲示する銘板の種別

種別	寄附総額		銘板
	個人	法人・団体	
フラテダイヤモンド功労賞	1,000万円以上	3,000万円以上	ゴールド(大サイズ)(縦150mm×横150mm)
フラテゴールド功労賞	500万円以上	1,000万円以上	ゴールド(縦70mm×横120mm)
フラテシルバー功労賞	100万円以上	500万円以上	シルバー(縦50mm×横100mm)
フラテブロンズ功労賞	20万円以上	100万円以上	ブロンズ(縦25mm×横100mm)

寄附金合計	520,671,030円	
○教員	227件	47,110,000円
○医学部卒業生	646件	233,338,935円
○病院・企業等	150件	177,360,000円
○その他(講座・同門会等)	5件	21,103,636円
○その他(同期会)	6件	16,098,459円
○その他(個人・団体)	100件	25,660,000円

紺綬褒章

※紺綬褒章とは、公益のために私財(個人の場合500万円以上・法人の場合1,000万円以上)を寄附した者を対象に、表彰されるべき事績の生じた都度、各府省等の推薦に基づき審査され、授与されるものです。

進に著しく寄与する事業を行う団体であって、当該団体に関係の深い府省等の申請に基づき賞勲局が認定した団体)に対する寄附が授与の対象となります。

北海道大学は、平成29年11月以降のご寄附の分から対象者に意向確認をして承諾いただいた方のみ文部科学省に推薦しております。

国、地方公共団体又は公益団体(公益を目的とし、法人格を有し、公益の増

北海道大学医学部 フラテ祭2020
開催中止のお知らせ

2020年9月26日に開催を予定しておりました「北海道大学医学部 フラテ祭2020」につきましては、新型コロナウイルスの感染が拡大している状況を鑑み、今年度の開催は中止させていただきました。



医学部ロゴ
刻印入り



ソメスサドル 医学部ロゴ刻印入り
パッカブルトートバッグ 15,000円(税込)
色：紺、ベージュ ※カバーは黒となります。



オリジナル切手シート用アクリルフレーム
2,000円(税込)
※切手シートは別売りです。

北海道大学医学部創立100周年記念オリジナルグッズ



医学部創立100周年記念切手シート
(100周年オリジナルクリアファイル付き)
1,600円(税込)

記念切手シート、記念切手シート用アクリルフレーム、ゴルフボール、マーカー付きグリーンフォーク、ソメスサドル製のトートバッグを販売しております。北海道大学医学部は創立100周年を迎え、ご贈答や記念品、コレクションとしてお楽しみいただけるような記念グッズをご用意いたしました。記念グッズは、北大生協医学部食堂購買部にて販売しております。本学を訪れた際にも是非ご利用ください。
※収益金の一部は医学部創立100周年記念事業基金募金へ寄附され北大医学部の新たな発展と後進のために役立てられます。

※店頭では一部取扱いのない商品もございます。
※切手は、増税前に製作。82円郵便切手となります。
ご了承いただきますようお願い申し上げます

【お問い合わせ】 北大グッズ受注センター
フリーダイヤル 0120-065-638
[営業時間] 平日 10:00 ~ 17:00 (定休日：土・日・祝日)



ゴルフボール ダンロップ スリクソンZ-STAR
4,500円(税込)



マーカー付きグリーンフォーク
3,000円(税込)

告知板

<教授就任挨拶>

三重大学大学院 医学系研究科
周産期新生児発達医学講座 教授



まつだ ただし
松田 直(63期)

今春より標記講座の教授に就任致しました。振り返れば大学はひっくり返したおもちゃ箱のように楽しいところでした。北大(9年間)では妊娠ヒツジを飼って胎児・早産児の脳性麻痺の予防

策を練り、東北大(14年間)ではNICUを整備して新生児科医を育成する傍ら、西豪州大ラボと一緒にヒツジ胎仔を用いて人工子宮を開発しました。さすがにもうヒツジ科医は卒業して臨床を究めようと思ったら、今度は三重大に呼ばれました。流転の人生を彷徨っていますが、北大小児科・産婦人科でたき込まれた開拓精神を胸に刻んで、引き続き新しいおもちゃ箱を楽しみたいと思います。

北海道大学大学院保健科学研究院
保健科学部門創成看護学分野 教授



えびな やすひこ
蝦名 康彦(66期)

5月1日付で、保健科学研究院教授を拝命いたしました。私は卒業後すぐに産婦人科に入局し、大学院を経て北大病院で婦人科腫瘍の臨床・研究に携わっております。そして2010年から神戸

大学へ移り、山田秀人教授(60期)のもと、生殖免疫や母子感染に関する研究も行ってまいりました。今後は次世代を担う看護や助産のプロフェッショナルを一人でも多く育成して、産婦人科医療の向上に貢献できればと存じます。新たなチャレンジとなりますが、同窓会の先生方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

<学内・院内人事異動>

<辞職> 2020年9月30日	井口 晶裕(66期) 小児科講師(天使病院小児科副部長) 賀古 勇輝(75期) 精神科神経科講師(岡山県精神科医療センター)	2020年9月1日	高島 雄太(会員2) 内科 I 助教 加藤 伸康(82期) 循環器・呼吸器外科学教室 助教
<任期満了> 2020年9月30日	杉山未奈子(81期) 小児科特任助教(同科医員)	2020年7月1日	菊地 英毅(73期) 内科 I 講師(同科助教)
<採用> 2020年6月1日	川久保和道(77期) 消化器内科 特任助教	2020年8月1日	和田 剛志(81期) 救急医学教室 助教(病院救急科助教)
2020年7月1日	早川 峰司(73期) 救急科 准教授 藤間 憲幸(80期) 放射線診断科 講師	2020年8月1日	西浦 博(会員2) 衛生学教室 教授(京都大学大学院医学研究科教授)

事務局からお知らせ

ご寄付のお願い

同窓会では、企業、団体、個人の皆様に、同窓会事業支援のためのご寄付をお願いしております。
ご寄付をいただいた場合、ご了承を得て同窓会新聞にご紹介し、10万円以上のご寄付には、楯または額による感

謝状を贈呈させていただきます。
ご寄付につきましては、同窓会事務局にご連絡ください。
電話 : 011-706-5007
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報に掲載されていますので、ご不用になった名簿は、例えばシュレッダー処分または焼却処分をお願いいたします。なお、ご自身で処分が困難な方は、郵便(レターパック等)により同窓会事務局へ送って

ください。**なお、恐縮ですが送料は各自でご負担願います。**
〒060-8638
札幌市北区北15条西7丁目
北大医学部百年記念会館
北海道大学医学部同窓会事務局

同窓会費について

- **会費納入のお願い**
会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。
同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。
- **会費納入方法**
①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかによります。
※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。
- **会費未納者と刊行物の送付**
・過年度分未納会費が2年を超える会員には、会員名簿(同窓会誌)をお送りしません。
- **会費免除者と刊行物の送付**
・会則により、卒業後55年を経過した会員には、会費は、翌年度から免除となります。
- **40期生は令和2年度から、41期生は令和3年度の会費から免除となりますが、免除前に2年を超える未納会費がある会員には、会員名簿(同窓会誌)をお送りしません。**

ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、本制度には500名近い会員が加入して、ご好評をいただいております。

本制度には「医師賠償責任保険(勤務医向け)」「医療・がん保険」「所得補償保険」があり、団体割引が適用されるので割安な保険料で加入すること

ができます。
年度途中でも加入できますので、同窓会事務局にお問い合わせください。

電話 : 011-706-5007
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp
※詳細は同封のパンフレットをご覧ください。

新刊書紹介



最新情報から身近なことまで「もっと深くがんを知るために」
THE WAY FORWARD No.17補冊
こばやし ひろし
小林 博(28期)
(公財)札幌がんセミナー発行
※入手ご希望の方は、氏名・送付先を記載の上、同窓会事務局までご連絡ください。
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

A4サイズ、わずか62ページほどの冊子であるが、読み進むにつれて読者は、この冊子が読む者への優しく細やかな配慮で編集されていることに気付くであろう。例えば記事の中でも大切な箇所には淡い青や赤の下線が付けられている。忙しい方は取りあえずこの箇所だけはお読みくださいという、著者の心配りなのだ。これは、「現代のがん」が持つ多面的重層的な全体像を、少しでも理解してほしいという編集者を兼ねた著者の熱意の現れでもある。本書を読み終えて静かに伝わってくるのは、あたかもがんの伝道師のような著者のこうした誠実な姿勢である。

本書は、各章一問一答形式50章にわたる本文と、その第1章から第6章までの「補足説明と私見」と題した注解で構成され、物静かな口語調で綴られる文章はどれも簡潔で美しく、ときには心がゆすぶられる。関心をお持ちの向きには、例えば本書「補足説明と私見」の「がんとの闘いは死との闘い。その恐怖から逃れるためにどうしたらいいですか?」の一読をお勧めしたい。
「がんが高齢者に多いのはなぜですか?—がんは将来どうなるでしょうか」と題した第1章から始まる本文50章はどれもが、がんの現状と近未来にわたる医科学と臨床医学や生命科学からの展望など、国際的に高名ながん病理学研究者である著者の学識の広さと卒寿を超えた老熟の人柄の深さを伺わせる内容に溢れている。同窓諸先生の座右の一冊にぜひ加えていただきたい。
(28期 方波見康雄)



「見てわかる ウロダイナミクス」
きった たけや
橘田 岳也(74期)他編
医学図書出版
¥4,950

ウロダイナミクスとは、膀胱にどのくらい尿が貯められるか、残尿なく排尿できるかといった膀胱の働きや、尿失禁が起こる際の圧力など、下部尿路の形態と機能を同時に確認することが可能な唯一の検査である。しかしながら、保険収載上の点数の問題などから、すべての医療機関で行える検査とはなっていない。そのような現状のため、エキスパートが偏在しており、実際に検査中のトラブル対応の指南を得ることが容易ではないといった問題が存在する。その原因には、ウロダイナミクスに関する日本語の良書が存在していなかったことがある。本書は、そのような現状を解決できる可能性

を秘めている。各種疾患や病態のウロダイナミクスストレスを見開きで確認できるハンディな形式となっている。
多くの先生方に排尿の悩みを相談される患者は多いと考えられる。なぜ、尿の勢いが低下するのか、疾患特異的な排尿障害の種類の掲載など、排尿障害を診療されるすべての医師に有用な知識が詰まっている書である。本書では排尿機能の醍醐味ともいえるべき排尿障害を、基礎から、いかに治療へ結びつけるかを論理的に説明が可能になるよき指南書となっている。さらに本書の編集には検査技師が参画しており、技師からの視点が多く記載されている点も、今までにないパターンのお書であると言える。医師のみでなく、看護師、検査技師、放射線技師をはじめ医療スタッフにぜひ読んでいただきたい1冊である。
(60期 篠原信雄)

令和2年度 同窓会員名簿記載事項確認のお願い

前号でもお知らせいたしました通り、本年度は11月下旬に同窓会員名簿の発送を予定しております。最新登録データは、新聞に毎号同封しております「登録情報変更届(兼宛名台紙)」あるいは「コンビニ払込票(兼宛名台紙)」右上「住所登録内容確認」部分に印刷しております。

登録情報に変更等がございましたら、10月5日(月)までに下記のいずれかの方法で、事務局までお知らせください。

1. 「会員登録情報変更届」(今回新聞に同封しているハガキ)
2. E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp
3. FAX : 011-706-5007

※お電話以外でお願いいたします。

ご返信のない方につきましては、訂正変更がないものとし、同窓会員名簿に従来の登録データを掲載させていただきます。住所変更等には可能な限り対応いたしておりますが、期日以降にご連絡いただきました場合、名簿の印刷には間に合わない可能性がございます。申し訳ございませんが、その旨ご了承ください。

※ 名簿の校正は、各期評議員(予備評議員)あるいは各期の担当者が、ご自分の卒業期のみを担当しております。会員名をかたる偽の問い合わせには、ご注意ください。よろしくお願い申し上げます。

過年度分未納会費が2年を超える 会費未納者と会員名簿の発送について

前号の新聞にも掲載しておりますが、2014年度より、過年度分未納会費が2年分(1万円)を超える会費未納者には、会員名簿および同窓会誌の送付を停止することになっております。

過年度会費が2年を超える会員で、本年度の会員名簿の送付を希望される方は、2020年9月30日までに未納会費の納付をお願いいたします。期日以降に納付されましても、印刷部数確定のため、今年度の名簿をお届けすることはいたしかねますので、ご了承ください。

●ご注意ください

【令和2年度会員名簿について】

2020年9月30日を同窓会費の納付期限としております。

たとえ年度内(2021年3月31日まで)に未納額を納付いただきましても、当年度発行の名簿をお届けすることはできません。

【過年度分の名簿および会誌について】

後日、滞納分を納付されましても、個別発送はいたしません。

北海道医学会からお知らせ

○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいております。

○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行(5月、11月：令和2年は第95巻)
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催(10月下旬：昭和42年から実施)本年度は中止いたします。
- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与(年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施)

※ 北海道医学雑誌は大正12年8月の

創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。

本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

○会員の状況

(令和元年12月31日現在)

- ・一般会員 639名 (年会費 4,000円)
- ・学生会員 7名 (年会費 1,000円)
- ・特別会員 74団体(年会費 25,000円)
- ・名誉会員 151名

○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医

学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○「北海道医学雑誌」の原稿募集

- ・募集する原稿は、「原著論文」「症例報告」「総説」「速報」「学位論文」「学位論文の要旨」「BAY (Best Articles of the Year)」「研究会抄録」「談話会抄録」等です。
- ・「教室だより」「海外だより」等、論文以外の投稿も歓迎します。
- ・投稿者は北海道医学会会員であることを原則とします。
- ・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

○お問い合わせ先

北海道医学会事務局
電話 : 011-706-5007
E-mail : digakkai@med.hokudai.ac.jp

百年記念館の利用について

北海道大学医学部百年記念館は、原則北海道大学医学部及び関係部局が主催する授業及び行事、また、同窓生の交流の場としてご利用いただけます。なお、事前予約が必要のため、ご利用希望の際は下記問合せ先までご連絡願います。

お問い合わせ先

北海道大学医学系事務部
総務課庶務担当
TEL:011-706-5004
FAX:011-717-5286
E-mail:shomu@med.hokudai.ac.jp
【受付時間】
月曜日～金曜日
(年末年始・祝日を除く)
午前10時15分から午後5時まで

同窓会費の納入は口座振替で

同窓会費の納入方法は、①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込のいずれかです。

特に口座振替は、店頭へ出向く手間が省けます。また、納入忘れがないのでとても便利です。

口座振替を希望する方は、事務局にお申し付けください。手続きに必要な「預金口座振替依頼書」をお送りします。ホームページからもダウンロード出来ます。必要事項を記入の上同窓会事務局へ送ってください。

電話：011-706-5007 E-mail：furate@med.hokudai.ac.jp

同窓会費納入のお願い

同窓会事業は会員の皆様から納入された会費によって運営されています。会費納入にご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

ご逝去者

新聞166号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
2010年	齋藤善広	59	4月30日	原田吉雄	39
2011年	伊藤道哉	26	5月10日	加勢貴之	33
1月20日	土谷茂樹	31	5月18日	相澤博	54
2013年			5月19日	仁藤正昭	38
12月	森直樹	54	5月24日	上林正	49
2016年	今直樹	48	6月1日	柳澤守	28
7月24日	飯岡博	48	6月4日	岡田守夫	専6旧
2019年			6月12日	小野武	23
1月5日	清水豊	25	6月14日	直江和	専6旧
1月11日	藤佳作	26	6月20日	河原崎	25
1月14日	山正和	30	6月26日	林雅	43
7月19日	今東正	38	7月11日	設下雅	25
10月27日	及川健	52	7月14日	林忠	45
11月7日	石黒一	27	7月21日	齋藤久	31
11月23日	齋藤一	30	7月21日	谷口博	39
12月31日	青木重	30	7月23日	方正	専7旧
2020年			8月23日	西谷久	35
1月31日	郡山栄次郎	48	8月23日	伊藤長	28
4月15日	山賀昭二	65	8月26日	坂岡敬	30
	吉野成一	専7新	8月31日	辻田秀	34
			8月31日	太田秀	38

一面の写真説明

「北大病院から眺む」

ながい 梓(89期)

北大病院12階からの6月初旬平日の眺望です。新緑がまぶしい銀杏並木の向こうに札幌

編集後記

COVID19流行下において、国民や社会はマスクやSNSを通して膨大な情報に否応なく晒され、混乱をきたしました。これは感染症リテラシーの低さがなせるものと推察します。そのような中で北海道大学関係者が正しい情報を発信し感染症リテラシー向上に努められ社会の正常化、とくに国民の行

の街並みを望むことができます。この病院で実習された経験のある同窓生にとっては、懐かしい光景ではないでしょうか。今は新型コロナで落ち着かない状況ですが、その喧嘩を一時忘れさせてくれる眺めです。しかし、いつもではありえない空いた駐車場がコロナ余波を感じさせます。

動変容の推進に貢献されてきたことが本号記事に掲載されています。同窓会の多くの先生が最前線で直接診療なされている事実と伴にとっても素晴らしいことと感じます。感染症リテラシーを含めた医療リテラシーの向上に医療人として平時から努めることの重要性に改めて思いを馳せる次第です。(67期 矢部一郎)